

表紙写真について

作品：こばやしきよちか むさしひゃっけいのうち小林清親「武蔵百景之内 下総真間つぎ橋」 明治17（1884）年
大判木版画 36.8×24.4㎝
城西国際大学水田美術館所蔵

本学水田美術館所蔵作品のうちから、下総真間（現在の市川市）を描く一枚を選んだ。真間には万葉集以来、歌枕として著名なものが二つある。一つに手児奈伝説、二つに継橋である。絶世の美女であった手児奈（てこな）は、多くの男性に求婚され悩み（異説もある）、真間川に身投げしたと伝えられる。柿本人麻呂に彼女の墓所を詠む歌があり、その時代には既に名所として知られていたことがわかる。手児奈が水を汲んだという井戸が現在も亀井院裏手に残り、水を汲む手児奈は画題としても度々みられる。一方の継橋は、現在、手児奈霊神堂の側に赤い欄干の小さな橋としてある。本図にも欄干のある橋が描かれている。しかし、本来は継橋という名称が示すように板を継いだ橋だったのである。

画家の小林清親（1847～1915）は、西洋画に学んで光と影を情趣的にあrawす「光線画」と呼ばれる風景画で名をなした明治期版画界の大物。幕臣の家に生まれ、将軍家茂の二度目の上洛に随行、後に将軍家にしたがって静岡に住し、やがて画家としてデビューした。「武蔵百景」は「光線画」が人気となった後に刊行されたシリーズで、「光線画」ではなく、伝統的な浮世絵、特に歌川広重の「名所江戸百景」のような画趣、近くのを大きくとらえる構図、色調が目につく。実際、「名所江戸百景」図柄をとっているとみなせるものもある。そのため不評だったのか現在三十七点しか確認できず、百点完結することなく途中で中断されたようである。本図は手前左に積み藁と女性を大きく描き、中景に真間川と橋を、遠景に手児奈霊神堂をあらわして、遠く真間の名所を望む様子である。（門脇）

発行日	2009年1月31日 城西国際大学 日本研究センター紀要 第3号
発行所	〒283-8555 千葉県東金市求名1番地 城西国際大学 日本研究センター TEL 0475-55-8800（代表） 日本研究センター URL http://www.jiu.ac.jp/japan/
編集	日本研究センター刊行物編集委員会
発行者	水田宗子
印刷所	株式会社 正文社 〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町1-10-6 TEL 043-233-2235
